

KIDS SMILE LABO JOURNAL

"キッズ スマイル ラボ ジャーナル"

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。

Vol.41
2024
NOVEMBER
TAKE FREE



KIDS SMILE LABO の 1 枚。

副園長の森善さんが選んだ、とっておきの 1 枚を紹介します！

“大きな山を超えた先で”

一つの大きな目標を乗り越えたとき、
わたしの心の奥深くにある感情たちがぶるぶると震えた。
言葉で表すなら、
嬉しい。楽しい。感動。不安。そして緊張。
だけど、それだけじゃ足りない。
もっと大きくて、もっと深い、言葉にはしきれない何か。
胸の中に広がる、不思議で温かい感覚。

わたしは全力で頑張った。
みんなも全力で頑張った。
一人じゃなかった。みんなで一緒にやりきった。

大変だった。決して簡単ではなかった。
でも、頑張るって、こんなにも素晴らしいことなんだって気づいた。
心が満たされて、なんだかすごく気持ちがいい。

これで終わりじゃない。
またひとつ、大きくなれた気がするから。
次の挑戦へ進んでいこう。

photo & text by morimori

JOURNAL TOPIC

01 KIDS SMILE LABO CLASS NEWS

11月の子どもたちの様子をピックアップ！

02 大山登山

今年度の、大山登山物語り。たっぷり堪能してください。

kidssmilelabo.com



@kidssmilelabo

KIDS SMILE LABO

@kidssmilelabo

@KIDS_SMILE_LABO

from KOMOREBI <0歳児>



友だちの名前に興味津々です。

かわいい人差し指を出して、この子は「だあれ？」と仕草で聞いてくる子に、「〇〇ちゃんだね」と保育者が答えると満足そうに頷いて、そしてまた別の子を指で差して「だあれ？」と順番に確認していきます。聞かれている子も嬉しそうで、じっとして名前を呼ばれるのを待っています。こんなやりとりが、こもれびクラスではブームとなっています。

なので、手遊びうたにも名前を入れて「〇〇ちゃんはどこだ？」と遊んでいます。みんなは「ここだよ」と、〇〇ちゃんを指さして教えてくれます。保育者とタッチをして「おはよう」と、ごあいさつ。友だちとタッチをして楽しんでいる子もいます。小さな手と手が重なって、ほっこりします。

友達という存在にどんどん興味が出てきたこもれびの子どもたち。先日遊歩道で遊んでいると、長い蔓を見つけて一人の子が持つと、僕も私も持ちたい！とみんなで蔓を持って遊び、一人が駆け出せば、みんなが蔓を引きずって走っていく。途中で一人が転ぶと、立ち止まり、大丈夫そうだとわかるとまた走り出していました。その後、進んだ先にあったベンチの上に雨水がたまっているのを発見！パシャリと手で叩く子がいると、すぐに反応してもう一人の子がパシャリ。パシャリパチャパチャと賑やかに合奏が始まり、声をあげて笑う子ども達。

今まではクラスにいるお互いの存在を感じながらも、個々で過ごしていたところから、みんなには名前がある！ということ知ったことで『一緒に過ごしている仲間』への興味が広がり、こんな風に子ども同士で楽しく遊べるようになってきているのだと成長を感じる一コマでした。

これから子どもたちの絆がどのように広がりを見せていくか、楽しみなこもれびクラスです。
文 ふくちゃん

ぼくの・わたしのまちのだいはっけん！

散歩の行き帰りをみんなで歩いて行く事が増えてきました。住宅街を歩いて行く時は、よくお会いする地域の方に挨拶をし、また商店街を歩いて行く時には美味しそうなラーメンや、ハンバーグ、ステーキ...等々の看板に寄り道をして「あむあむ！」「がぶっ！」と食べるまねっこをして楽しみながら歩いています。最近は自動販売機の前を通ると「ぺいぺい♪」と言いながら手のひらや手の甲をタッチするのがブームになっているそよかせんです。

石や木の実など拾い集めることが好きな子どもたち。気に入ったものを見つけては片手に握りしめるものの、その小さな手はすぐにいっぱいになってしまい拾っては溢れ、拾っては溢れ...と試行錯誤しています。夢中で拾う一生懸命な姿に可愛いあと感じつつも、何かいいものはないかな？と、ペットボトルバッグを用意。

早速、どんぐりがたくさん落ちている中央公園へ持ってでかけました。小さなどんぐりを拾い集めてはポトンポトンと音を立ててバッグにしまい、いっぱいになったバッグを「みてみて！」と嬉しそうに見せてくれます。バッグを揺らして音を鳴らすとその重たさも伝わってきます。

集めたどんぐりは、力強く足で踏む子、割れ目が入ったどんぐりを剥く子、薄い皮を剥く子。と、ハトに食べてもらえるようにみんなで協力して頑張っています。

出来上がったご飯をもってハトの元へ。食べて欲しいみんなの想いを知らないハトは逃げる逃げる。。けれども、ぱくっと食べた瞬間は嬉しくてみんなの表情がパッと明るくなり、楽しいことがまた1つ増えた11月でした。

文 れいちゃん



from SOYOKAZE <1歳児>

逞しいのばなさんの足

近頃、『探検』という言葉に気持ちが上がるのばなさん。すっかり体力もつき、活動範囲がどんどん広がっています。11月は河川敷を下り、石畳の上を歩いて渡り鳥を観察したり、青少年広場の方まで足を伸ばし、ラボからの往復5kmを歩き続けることもありました。

そんなのばなの子どもたちに11月のぼうさいの丘遠足では「今まで行ったことがないところを歩いてみよう！」と話す、気持ちはすっかり探検家。野草の回路を下り、長く伸びた階段を「大山登山だ！」と意気揚々と登って行きました。(先日幼児組が行った、登山に憧れを抱いているのばなさんです。) 逞しい足取りでスイスイと登り終え、次なる場所は急斜面。ここが、のばなの子どもたちの『楽しい!』に見事にヒットしました。

0歳児の時から斜面のぼりを楽しんできたクラスですが、この斜面の傾斜はおおよそ70度ほど。

芝でできているこの斜面に足をひっかけるところはほとんどなく、登ろうと1歩を踏み出しても、すぐにズリ〜と滑り落ちてしまっていました。

それでも「絶対に登り切つてやる！」という強い気持ちから、次第に裸足になる子も。短く生えそった芝をギュッと手で掴み、足の親指で踏ん張り、歯を食いしばりながら繰り返し挑戦。

そしてついに！頂上へと登りきることができると、ニカッと笑顔を見せて両手を掲げてガッツポーズをしていました。(この時も気持ちはすっかり大山登山でした！)

そこから次に始まったのは、上からズリズリと滑り下りる遊び。70度の傾斜から滑り下りるスリル感が面白さになり、ゲラゲラと笑いながら何度も何度も滑り下りて遊びました。

大人は少しヒヤッとする傾斜でしたが、子どもたちにとっては最高の遊び場となり、成長を与えてくれた時間となりました。
文 あづあづ



大山登山

from MINAMO OZORA DAICHI

17人の気持ちを一つに、 大山阿夫利神社編

いよいよやってきた大山登山当日。ラボの職員からは「みんなが安全に登れますように」とクラスカラーで編んだミサンガのお守りを、一人ひとりに贈りました。

お守りをつけ、こま参道をどんどん登り、女坂へ。スタートの時には昨年より少しゆっくりかな？と思っていましたが、子どもたちはここからすごいパワーを見せてくれました。

長い階段も手すりをしっかりと持ちながら、一步一步進んでいきます。ごつごつとした岩や、飛び出した根っこに足元をすくわれ、転んだり涙する場面もありましたが、そこで挫けるのではなく、自分の力で立ち上がったり、友達の励ましを力に変えるなど、気持ちを切らさずに、上を目指して歩む子どもたちの姿はとても逞しく、目を見張るものがありました。

登る勢いは衰えず、昨年より40分も早く阿夫利神社下社に到着。「やったー！」と登り切ったことを喜ぶ子や、「おうちがみえた！」と下社から見える景色をじっくり眺める子など、それぞれがその場でしか味わえない達成感や楽しみを見つけていました。

朝早い登園やおにぎりの持参と、保護者の皆様のご協力がなければ、成し遂げられなかったことだと思います。約2時間水面、大空、大地、17人で気持ちを一つに登り切った大山登山でした。

大山登山、どうだった？

次の日、大山登山をどう感じたのか、朝の集まりで振り返りの時間を持ちました。「ケーブルカーにパワーをもらえたから登れた」「七不思議を聞くのが楽しかった」...と紹介しきれないくらい色々な感想を話してくれました。

1番多かったのは「おにぎりが美味しかった」「みんなで食べられたのが嬉しかった」と登る前から楽しみにしていたおにぎりの話。みんなで振り返りをすることで、言葉にしなないと分からない、一人ひとりの心に残った思い出を、共有することができた時間となりました。

またひとつ心に残る思い出ができたね。

文いじくん



おまけ

おおよまとざんまで あと20にち

当日までは「あと20にち」から始まる、日めくりカレンダーを1人ずつめくったよ！大山に登るぞ！という気持ちは日に日に増してきました！



大山登山前日に子どもたちへ聞いてみた！ / 「登っている途中で疲れちゃったらどうする？」

- ・歌を歌う
- ・ロマンスカーの音を出す
- ・「頑張ろう！」の気持ちで登る
- ・休憩する
- ・お話ししながら登る
- ・ケーブルカーを見てパワーをもらう
- ・友達を応援する



とみんな色々なアイデアを出してくれました♪

みんなの力で乗り越えられた、大山登山 ～頂上編～

Start!

ついに年長クラス、だいちさんだけの大山登山頂上編の日がやってきました！
当日の朝、子どもたちの明るい表情、声のトーンから、大人も子どもも緊張していた糸が少しずつほぐれてきたことを感じました。前日の夜には興奮してなかなか寝付けなかった子どもいたようですが、笑顔で元気に「いきます！」と出発することができ、一安心。

電車とバスを乗り継いだ後、ケーブルカーで阿夫利神社まで行き、そこから頂上を目指します。最初の長くて急な階段を見た瞬間、思わず「おお…」と声が漏れてしまう子どもたち。2週間前に行った女坂の道のりとの違いを早々に感じ、圧倒されていたようですが、「よしっ！」と気合いを入れて歩き出しました。

登っていくうちに、大人でさえ段差が大きいと感じる岩もありましたが、“どこに手や足をかけたら歩きやすいか”体の使い方を自分で考えているようでした。保育者に助けを求めることはほとんどなく、黙々と進んでいきます。

最初の休憩まではテンポ良く進めていたのですが、一度休憩をしたことでお菓子の美味しさと休む魅力を知ってしまった子どもたち…ほんの数分後、「もうおかしきゅうけいしたい」「あしたい」と弱音をポロリ…こぼし始めました。ここで休憩してしまったら後半が大変なのはと感じ、そこで突如れいじ君扮する必殺キャラクターが登場します。最後尾から迫るれいじ君に子どもたちが食べられそうになると、「きゃー！」と逃げるようにスイスイ岩の段差を登っていきます。何より、笑顔で楽しそう。子どもたちもれいじ君の扮するキャラクターに合わせてお姫様などになりきっていました。「なんだ、まだパワーがあるじゃないか！」と先頭のゆりゆりも安心して先へ進むことができました。この戦略が大成功し、2度目の休憩までかなり時間と距離を稼ぐことができました。

富士見台に到着。見晴らしの良い景色に思わず「やっほー！」と叫んでみる子どもたち。よく耳を澄ますと…なんとやまびこが返ってきている…！何度試しても返ってくる「やっほー！」に大興奮でした。

ここまで来れば頂上まであと少し。
歩きながら目安にしていた立て看板の数字もどんどん大きくなっていきます。28丁目まで来た後、ついに頂上の看板が見えてきました！

「ついたー！」「がんばったー！」と喜びを感じる時間は意外にもあっさり終了し、「はやくバッジをかいにいこう！」と購買へと急ぐ子どもたち。購入したバッジをそれぞれ帽子の好きな場所に付け、ご満悦な様子でおにぎりを食べ始めました。「はやくバッジ、〇〇くんにもせたいなあ」「みなもさんたち、いまごろなにしているかなあ」とラボにいる歳下の子どものことを考えながらの昼食タイムでした。



am9:44 ここから頂上を目指します！



am9:54 大人に混ざって頑張りました！



am10:19 おやつタイム



わたしはアリエル /



am10:13 暑いので冷たい石でクールダウン



am10:20 地図のチェックポイント毎にシールを貼って進みました



am10:47 立て看板の〇丁目を目安にしました。



pm12:07 鹿さんに会ったよ



頂上さむ〜い！
温かいお茶にほっこり



pm12:48 山頂に到着
愛情たっぷりのおにぎり美味しいね！



pm2:48 下山一番の難所



pm1:24 見晴らし台でも「やっほー！」



pm1:05 帰りご機嫌に歌をうたって…



pm4:04 登山終了！みんなで万歳！！



下山は行きとは違うコースで歩いていきます。
「かえりのほうがらくちん！」と子どもたちが言っていたように、舗装された階段が多かったので、とても歩きやすく、歌いながら景色を楽しむ余裕さえありました。段々と日が落ちてくる暗い森を見て、「よるになってきちゃう」「こわい…」と呟く子どもいましたが、会話を楽しみながら歩いているうちに怖さも忘れていたようでした。

そして、大人と子ども、全員の力があってようやく阿夫利神社のゴール地点へ到着することができました。

「みんなでばんざい10かいしよう」と万歳できたこと。
出発時とほとんど変わらない表情とパワーで「ただいま！」を言うことができたこと。
大きな怪我もなく無事全員でラボに帰ってこることができたこと。
大人も子どもも「たのしかった」と思ったことが何よりも嬉しく感じました。
行く前は「登りきれないのではないか」「どうなるか不安」だった気持ちは大人も子どもも一緒だったと思います。
ラボに帰ってから、子どもたち一人ひとりが感想を言った後に大人も感想や思いを伝えました。大人の言葉に対して子どもたちは頷きながら、時々相槌をしてくれていたのですが、一人の子の頬にスーッと一筋の涙が溢れました。それを見て堪えきれず、大人も涙し、全員の子どもにもうっすら涙が浮かんでいました。いつもの場所にいる安心感、登り切れた達成感から全員で涙を流したことは私にとって一生の思い出になりました。

道のりは決して簡単なものではなかったけれど、今回の大山登山頂上編を経験した子どもたちはまた少し、大きくなった気がします。

絆も深まったように感じます。
今回の経験を自信に、残り少ない園生活の中で楽しみながら成長を積み重ね続けていってほしいと思います。

保護者の皆様、美味しいおにぎりやおやつ準備、登園時間等、沢山のご協力ありがとうございました。
文 ゆりゆり

Finish!



第1回 3歳児～5歳児 登山経路〈女坂～阿夫利神社〉

第2回 5歳児 登山経路〈阿夫利神社～山頂～阿夫利神社〉